

# 謹賀新年



矢中町長  
高橋 昌造

あけましておめでとうございませす。町民の皆さまにおかれましては、健やかなる新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

町長に就任以来、「矢中の自立と変革を目指し」、そして「やはばの未来 みんなで創ろう まごころを込めて」を主眼に取り組んでまいりました。新年を迎えて今、町政課題の解決に向け、改めて身が引き締まる思いです。これまで推進してきた各事業を総点検するとともに、町民の皆さまのご意見、ご提言をしっかりと踏まえ、それらを実現させていくことを最優先に取り組みます。

まず、コロナ禍後の「アフターコロナ」の時代を見据えた取り組みは喫緊の課題であり、子ども・子育て支援の推進と教育環境の充実、超高

齢社会の保健、福祉、介護の更なる充実、そして障がい者および高齢者福祉の充実を図ってまいります。

加えて、住みよい環境の更なる充実のため、特に若者や女性が働く場の確保に向けた企業誘致、農商工業の振興、関係人口の増加、ごみの減量化や地域でのカーボンフリー実現などの環境問題への取り組み、地域の安全・安心、防災対策の充実、芸術文化、スポーツの振興と発信などに注力します。

さらに、一般国道4号盛岡南道路を基軸とした町内道路交通網などの社会資本整備、市街化調整区域から市街化区域への編入による宅地化の整備、西部地域の活性化、徳丹城跡を中心とした観光振興などを通して町の発展と町民福祉の向上のため「万里一空」の精神で取り組んでまいります。

結びに、この一年が町民の皆さまにとって輝かしい年となるようご祈念申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

## 令和5年 元日



矢中町議会議員  
藤原 由巳

町民の皆さま、あけましておめでとうございます。第8波とも言われるコロナ禍の中、早期終息を願いつつ希望に満ちた令和5年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

昨年はコロナ禍終息の兆しが見える中、町内外の各種行事・事業が再開され、年内にも完全終息が期待されていましたが、夏場から初冬にかけて再度感染拡大に転じました。

その中でパラリンピックススキー競技の高橋幸平選手、テニスの菊地裕太選手、音楽では不来方高校音楽部、矢中北中学校特設合唱部、煙山小学校吹奏楽部、民謡の岩手漆原会が国内外で大活躍し、「音楽のまち」「スポーツのまち」である矢中町を全国発信されました。

議会としても、本来の活動に向け

各常任委員会の所管事務調査を中心に会派別の政務活動、町民との懇談会など各種事業を展開して参りました。中には、町が整備検討を進めている「ZEB（ゼブ）小学校」を実践した自治体視察なども行われています。また、議員各位からの一般質問が多く出され毎定例会に10人以上の登壇があり、特にも12月定例会には14人が登壇し、町長、教育長などに対し町民の声を届け、町政課題解決に鋭意努めて参りました。

コロナ禍も4年目となる本年は、完全終息を願いつつ、町財政の健全化に向け第7次町総合計画の検証と8次総合計画への取り組みを重点項目と位置づけ、停滞していた経済を中心に、自治会活動や町内青少年から高齢者組織の活性化に向けた活動を展開して参ります。

本年が皆さまにとって災害のない年でありますよう、併せて議会に対して更なるご指導を賜りますよう申し添え年頭の挨拶とします。